

・第 65 回宇宙理学委員会 議事録

日時：2019 年 6月24日（月）13:00～17:00

場所：宇宙科学研究所 研究・管理棟 2 階会議場

出席者：

上野委員、臼井委員、金田委員、河合委員、草野委員、倉本委員（会中、委員長に選出）、篠原委員（会后、幹事に指名）、清水委員（会后、幹事に指名）、杉田委員、関委員、関根委員、関本委員、堂谷委員（Zoom）、中村委員、羽澄委員、福家委員（会后、幹事に指名）、松原委員、三好由純委員、山崎委員（会中、副委員長に指名）、山田委員、吉田委員、渡邊委員

宇宙研：國中所長、藤本副所長、倉崎理事補佐、満田PD、久保田研究総主幹、森田基盤・技術統括、三好科学推進部長、三保 PO 室長、青柳科学推進部計画マネージャ

説明者：

佐々木国際宇宙探査センター長、深沢教授（広島大学大学院理学研究科教授）、郷田 JASMINE 検討室長（国立天文台）、阿部准教授（観測ロケット専門委員会）、和泉 LISA WG 主査（ITYF）

事務局：

科学推進部 加藤、伊藤、岸、大澤、早川、西本、柳澤

1. 所長挨拶

令和元年の宇宙理学委員会を開催する。前期からの継続委員もいるが、今期からの新規委員においては、委員を引き受けて頂き、ありがとうございます。大学共同利用システムとして宇宙科学研究所が機能するために、大学およびコミュニティから意見を頂戴するだけでなく、決議あるいは時には否決して頂くという非常に重要な役割を担うことになるため、今後の宇宙理学委員会へのご貢献に感謝申し上げます。皆様の高いご見識に期待する一方で、単にコミュニティの意見の代表としてではないということを申し上げたい。宇宙研の少ないリソースで宇宙科学を発展させるためには、ある程度のトップダウンの決断が必要となるシーンがあり、その時には、皆さまから重要なご意見を賜り参考にさせて頂きたいが、苦しい判断をしなければならない場合もあることをご理解の上、宇宙研、JAXA の活動にご協力、ご支援をお願いします。理学委員長がまだ決まっていないので、決まるまでは私の方で司会進行を行う。

2. 宇宙科学に関する最近の動き

資料 02-01 に基づいて、三好科学推進部長から報告がなされた。

3. 国際宇宙探査センターの状況

資料 03 に基づいて、佐々木国際宇宙探査センター長から報告がなされた。

4. 委員自己紹介

出席委員および宇宙研執行部から、自己紹介がなされた。

5. オリエンテーションと前期からの課題

資料 05-01～05-03 に基づいて、山田亨委員から報告がなされた。

6. 委員長選出・幹事指名

互選の結果、委員長が全会一致で選出された。その後、委員長から副委員長が指名され、委員会の承認を得た。

委員長	倉本圭委員
副委員長	山崎典子委員

※本会終了後、以下のとおり幹事が指名された。

幹事	篠原育委員
幹事	清水敏文委員
幹事	福家英之委員

7. 議事録確認

倉本委員長から、前回議事録案（資料 07-01～07-04）についてコメントや訂正を会議終了までにするよう各委員に照会されたが、特になく、了承された。

8. 専門委員会選出

資料 08 に基づいて、久保田研究総主幹から報告がなされ、各専門委員会の委員候補者が提示され、委員から意見等があれば、1 週間を目途に事務局まで寄せて頂いた上でメール審議とし、もしなければ理工委員長・幹事で調整の上、確定されることとなった。

加えて、空白期間が生じるのを防ぐため、今期の各専門委員会は 2021 年 9 月末までを任期とすることが了承された。

なお、キュレーション専門委員会については、構成員案が了承された。

9. 2019 年度国際共同ミッション推進研究の審査結果について
資料 09 に基づいて、久保田研究総主幹から報告がなされた。

10. RG 審査

1) 延長審査（着陸機による火星環境探査）

資料 10-02 に基づいて、臼井 RG 代表（理学委員）から RG の目的や活動成果をふまえた延長理由について説明があり、RG の活動延長が了承された。

2) 終了審査（電離圏・磁気圏探査衛星検討）

資料 10-03 に基づいて、中村 RG 代表（理学委員）から説明があり、RG 終了が了承された。

3) 設立審査（MeV ガンマ線観測検討リサーチグループ）

資料 10-01 に基づいて、深沢 RG 代表申請者（広島大学大学院理学研究科）から説明があり、委員からの指摘・コメントをふまえ、設置提案書を修正の上、メール審議を行うこととなった。

11. プロジェクト報告

1). 小型 JASMINE

資料 11-01 に基づいて、郷田 JASMINE 検討室長（国立天文台）から報告がなされた。

2). 観測ロケット専門委員会

資料 11-02 に基づいて、阿部琢美観測ロケット専門委員会幹事（太陽系科学研究系准教授）から報告がなされた。

12. LISA WG

資料 12 に基づき、和泉 LISA WG 主査（宇宙物理学研究系 ITFY）から報告がなされた。

13. 戦略的開発研究費（理学）審査結果について

資料 13-01、13-02 に基づいて、上野委員から報告がなされた。

なお、追加公募を発出するため、専門委員会構成員が確定後、速やかに次期評価委員会を設置することが確認された。

14. 搭載機器基礎開発研究費審査結果について

資料 14-01、14-02 に基づいて、清水委員から報告がなされた。

15. 閉会にあたって所長挨拶

國中：私の危機感を共有したい。宇宙研は探査機・衛星を打上げて、データを取得することが本務だった。思い返すと、2016 年には「ひとみ」、ERG を打上げたが、2017 年から 2021 年まで、宇宙研が主宰する衛星打上げはないことになり（2018 年打上げの MMO は ESA から）、これは大問題だと認識している。その理由として、「ひとみ」事故は大きなファクターだが、それだけでは理屈が説明できない。やはり、球込め不足なのは否めない事実。「ひとみ」打上げの裏では、MMX のプロジェクト準備審査をしていたが、これはあまりにも遅い。衛星を作るには大体 5 年程度が必要であり、今年 2020 年度の予算を獲得することは、5 年後の未来をつくること。魅力的な将来プロジェクトを抱えていないと、ミッションの予算を獲得することができない。

昨年は 110 億円規模しか予算がなく、今年は少し回復したが、年間 230 億円、10 年で 2300 億円という目標には全く届かない。この目標を達成すれば、10 年間で戦略的中型 3 機、公募型小型 5 機、計 8 機打ち上げられるが、そうすると、ほぼ毎年打ち上げないと間に合わない。今年は、LiteBIRD と小型 JASMINE という将来の球込めできたが、さらなる球込めを継続しないと、宇宙研の活動も維持できない。並べるのは何でもよいというわけではなく、政府を説得し、魅力的かつ世界を驚愕させる、価値の高いミッションでなければならない。宇宙理学委員会には、発案だけでなく、そのポテンシャルに値するミッションであることを、議論を通じて裏付ける活動を期待する。

以上